

(特非) 環境修復保全機構

カンボジア王国クラチェ州における 自然資源管理と有機農法を軸とした 持続可能な農村基盤づくり(フェーズ3)

ひろげる助成

3年目

実践

ESDスクール参加者 **294人**

苗床設置 **2か所**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**



ESDスクールで学ぶ現地住民たち

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

活動対象村は開拓地で、住民が点在して居住しており、実態を把握することが難しかった。

■ 工夫した点

活動をより必要としている住民へ届けるため、村内2か所(中心地と奥地)でESDスクールやワークショップを開催し、奥地に居住している住民も参加できるようにした。

課題

経済性のみに重点を置いた農業開発により自然環境や生物多様性が急速に失われており、さらに過度の化学肥料の施用が土地生産性の低下を引き起こしている。

目標

現地住民が持続可能な開発目標(SDGs)を理解して、森林や生物多様性を管理・保全できるようになる。また、有機農法に加えて、適正に化学肥料や農薬が施用される。

活動内容と成果

- 3年目の活動ではSDGsの普及を目指して2村で月に1回ESDスクールを開催し、延べ294人の参加があった
- 森林の管理手法及び森林管理のための人材及び組織づくりに関するワークショップが2村で計6回開催されるとともに植林活動や苗床の設置を行った
- 有機農法(堆肥や液肥、生物起源農薬等の作成・施用)に関するワークショップが2村で計6回開催され、合計58人が参加した。さらにモデルファームを2か所設置し、有機農法の普及拠点として活用した



ペレット堆肥づくりワークショップの様子



堆肥槽の設置をしている現地住民たち

全助成期間の活動を振り返って

サブ・ヴィレッジという扱いの村での活動は、住民との関わりや村へのアクセスなど様々なところで難しさを感じたが、住民との関係を築き、無事に活動を行うことができた。人の流入も激しく、また違法伐採等も頻発しているエリアにおいて、彼らに必要なクメール語の読み書き・算数、さらにSDGs、特に目標2の具現化に関連した持続的農業に向けた有機農法の導入や環境への意識向上を図ることができた。

| 活動地域 |  **カンボジア**

〒195-0064 東京都町田市小野路町2987-1

電話: 042-736-8972

E-mail: hq-erecon@nifty.com

<http://www.erecon.jp/>



今後の
展望

ESDスクールの継続開催が望まれているため、開催回数や指導員への報酬等についてコミュニケーションと相談を進める。また、設置した苗床を活用して現地住民らが自ら苗木の栽培ができるようになったため、植林活動や森林保全に役立てていく計画である。さらに、今後も有機農法に関心のある訪問者がモデル圃場に一定数あると予測されるため、圃場管理者は引き続き訪問者の対応を続けてもらい、本活動が定着していくことを期待している。